unicef

竹本会長と歩く 広島ピースウォーク

2011年卯年。日本ユニセフ協会兵庫県支部は10年目を迎え大きくジャンプします。

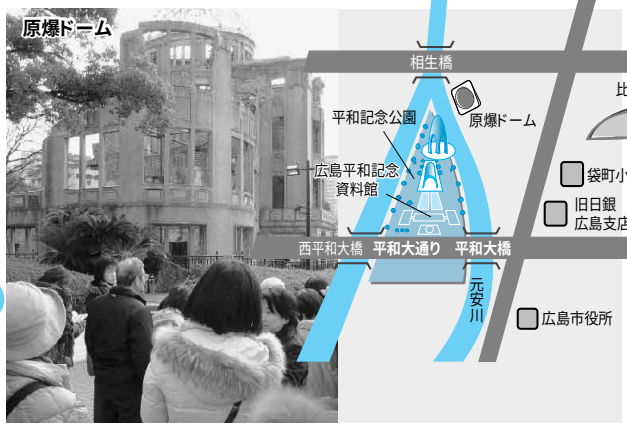
12月18日（土）、広島修道中学2年生の時に被爆された、竹本成徳会長と歩く「広島ピースウォーク」を開催しました。兵庫や香川から総勢32人が参加し、現在はビルの谷間の爆心地や会長がお弁当番をされた広島市役所などを一日かけて歩きました。「平和」の輝きが世界中のすべての子どもたちに届きますように!

第二次世界大戦直後に設立されたユニセフの原点を心に刻む旅となりました。

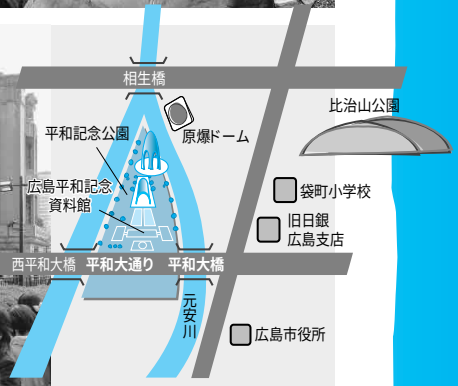
広島市役所

比治山公園

旧日銀広島支店



原爆ドーム



●3頁に竹本会長関連記事、4・5頁に竹本会長インタビューを掲載。

世界の子どもたちのために

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

Vol.32（2011年1月号）

「ユニ・ボラ塾」と私

末吉洋文
帝塚山大学法学部准教授

【プロフィール】すえよし　ひろふみ
1973年兵庫県生まれ。神戸市外国語大学大学院修了（博士）。現在、帝塚山大学法学部准教授。「国際法」や「国際機構論」のみならず、「平和学」や「国際知的財産法」を担当するなど国際問題について幅広い関心を持ち研究している。
著書に『国際紛争と国際法』（嵯峨野書院）、『講義国際法入門』（嵯峨野書院）等がある。　※ともに共著。

「ユニ・ボラ塾」の5年間とこれから

ユニセフ・ボランティア塾（ユニ・ボラ塾）の講師を担当してから早いもので5年の歳月が流れました。思えば、私が5年前にユニセフ大阪支部の夏のセミナーに参加し、家路に着く所を、兵庫県支部事務局長である福井さんに東梅田の駅で声をかけられたのが始まりでした。いろいろとお話をさせていただくうちに、ユニセフのボランティアの方々にスキルアップしていただくという目的で勉強会の講師を務めることになり、勉強会の名前が「ユニ・ボラ塾」と決まったのでした。

今まで、2006年の第一回「国連憲章の目的と原則」を皮切りに、学習会は14回を重ねました。今年のユニ・ボラ塾は、過去のテーマを振り返り、ユニセフと言えば子どもの権利条約ですが、それ以外の重要な国際人権文書にも目を向けていただこうということで世界人権宣言について学習し、第2回目は子どもの権利と大きな関連性を持つミレニアム開発目標についてグループでキャッチコピーを考えてもらうというワークショップを取り入れながら勉強しました。ミレニアム目標は、2015年までに貧困の削減など8つの目標を達成するべく設定されているものですが、意外と多くの人が知らない現実を鑑みてワークショップを開催しました。

毎回テーマの選択やその実施方法については苦労する部分も少なくないのですが、辛抱強く参加していただいているボランティアのみなさんのおかげで楽しく学習でき、同時に私も講師として成長できているように思います。

ユニセフの活動と兵庫県支部について

ユニセフの活動に参加してうれしく思うのは、人間ひとりひとりの持つ可能性を実感でき、自分もまた同時に成長し、そして救われているという感覚を得られることです。確かに、国際社会は時に残酷で凄惨な問題を我々に突き付けてきますが、それに対峙するのは国家のみならず個人でもあると思います。その個人のエネルギーを確かに感じることのできるユニセフの活動。これからも自分らしく、そして自分のできる範囲で参加していこうと思っています。

ユニセフの活動を広めていくことは、大切なことで、それは大人の責任でもあるでしょう。マザーテレサが「愛の反対は無関心」と言ったように、無関心であることや当事者意識のなさを改めるためには大人が子どもに教えていくべきなのでしょう。教育は国家百年の計とも言いますから、決して簡単ではありませんが、一人でも多くの方がユニセフの活動を知り、何らかのアクションを起こすことが必要だと考えています。

私が最近出会ったデカルトの「難問は分割せよ」という言葉があります。これはまさにユニセフの活動について言えるのではないでしょうか。今日、私たちが直面しているのはまさに貧困問題や武力紛争などの一人ではとても太刀打ちできなさそうな大問題ですが、こうした難問も、みんなで力を合わせれば解決できると思うのです。

国際関係において、国家は旧態依然の様相を呈していますが、非国家主体と言われる企業やNGO（民間団体）、そして自治体などは情報化社会の波に背中を押されて従来とは明らかに異なる影響力を持つようになっています。これは私たち個人についても同じことが言えるのではないでしょうか。ユニセフ兵庫県支部での活動は、このような確信を私たちに与えてくれます。

最後になりましたが、兵庫県支部の素晴らしいところは、会長の竹本成徳さんを中心とした余人をもって代えがたい人材に溢れていることではないかと思っています。ジャーナリストの大津司郎さんをはじめ、様々な経験をもっている方々との出会いがあることも私にとっては大変ありがたいことです。

グループで考えたキャッチコピーを発表

セミナー

●森田明彦さんを招いてオータムセミナー／2010年10月9日（土）　コープこうべ生活文化センター

「なくそう　児童ポルノのない世界の実現に向けて」

10月9日（土）、元日本ユニセフ協会広報室長の森田明彦さんによる「なくそう児童ポルノのない世界の実現に向けて」の学習会がありました。

冒頭の「香りセラピー」によって、硬いイメージの学習会が和やかな雰囲気で始まりました。香り別に5～6名のグループに分かれその香りのイメージを色や線で描き、お互いの作品について話し合いました。それぞれの表現から「みんなそれぞれ違う人間だ」と実感させられました。また、幼少時代の楽しかったことや悲しかったことを互いに話し合うことによって、「共通点」を持つことによる安心と肯定されることによる居心地の良さを味わうと、権利が尊重されているのだと感じました。反対に、批判や否定されると権利が尊重されていないように感じると気づかされました。

そこから一転して、参加者の涙を誘ったのは、「子どもの権利を買わないで～プンとミーチャのものがたり」の上映でした。「子どもの商業的性的搾取問題」を分かりやすく紹介し、二度と同じ過ちを繰り返さないようにと訴える作品でした。

その後は、児童買春をめぐる世界と日本の動き、ユニセフの活動「第一回子どもの商業的搾取に反対する世界会議（1996年）」から現在までの取り組みについて話されました。そして、今年の6月、子どもの権利委員会が日本に対してなされた懸念・勧告や法改正への強い促しの紹介があり、日本はもっとこの問題に取り組んでいかなければいけないことと、期待も述べられました。

最後は、参加者みんなで手をつないで、再び和やかな雰囲気で学習会を終えました。　（有江ディアナ）

さあ、みんなで手をつないで、ほら…

被爆体験

●被爆体験を伝える／2010年12月6日（月）　神戸市立桜が丘小学校

竹本会長と桜が丘小学校の子どもたち

暖かい日差しの中、神戸の西にある桜が丘小学校の校庭には、子どもたちの明るい声が響いていました。

3年連続の講演会が始まりました。

「さいごのトマト」の再版のきっかけは、ここの子どもたちの言葉からです。

竹本会長は平和を語り継ぐ『灯（あか）り』をともし、子どもたちのまなざしを照らし始めました。子どもたちは、「平和をつくることでしか命を守ることはできない」という竹本会長の力強い話をぐっと食い入るように聴いていました。

話が、「齋藤君と出会う場面」になると、会長は上着を脱ぎ捨てました。まるでそこが旧広島市役所の植え込みかのようにも思えました。次々と広島の街が破壊された様子が伝わってきました。その言葉を手繰り寄せるかのように、子どもたちは真剣に聴き続けました。自宅に戻ったお姉さんを背負ってトイレに行った場面では、会長は13歳の少年の様相でした。お父さんがお姉さんの亡骸にマッチの火を落とす場面を語り、「父親の無念を思うと本当につらいことだ。子どもを大事に思わない親はいない」と話し、親子の絆の大切さを訴えました。

講演が終わり、子どもたちからは感想が述べられました。

「こんなにつらい体験を話すのは大変なことなのに…。怖いことだったと思う」

「平和な世界が続いてほしい」

今年も桜が丘小学校6年生の子どもたちの心の中に「平和の灯（あか）り」がともった瞬間でした。　（福谷真知子）

真剣なまなざしは“心の灯り”

「子どもたちは輝く目でじっとこちらを見て、話を聞いてくれた。その顔を思い浮かべながら、丹念に手紙を読んだ。私は胸が熱くなり、涙がこぼれた。みんな、みんな、ありがとう。一生懸命書いてくれたね。頑張ってこの手紙に応えたいという思いから、『さいごのトマト』の再版は実現した」（『わが心の自叙伝』神戸新聞より）

2011新春

INTERVIEW

日本ユニセフ協会兵庫県支部会長

竹本成徳さん

【プロフィール】たけもと　しげのり
1931年生まれ。広島出身。旧制広島修道中学校2年生のとき、広島市で被爆。元コープこうべ理事長、元日本生活協同組合連合会会長。現在、日本ユニセフ協会兵庫県支部会長。
著書に、『最後のトマト』（致知出版）、『コープシンフォニー』（コープ出版）、『人びとの絆のなかで』（コープ出版）『さいごのトマト』（コープ出版）

胸に刻む平和への願い
～子どもたちの未来のために～

2002年の日本ユニセフ協会兵庫県支部設立時からご就任いただき、今も広島での被爆体験を語り続けておられる竹本会長。2010年は、著書『さいごのトマト』の再版や『わが心の自叙伝』（神戸新聞掲載）など、思いがけない出来事が数多くあったとお聞きしました。（聞き手・事務局長福井康代）

はじめに、“元気の秘訣”

――いつもお元気で、特に講演をされているときは、聴いているこちらもパワーをいただくのですが、その原動力はどこからでしょうか？

1931年（昭和6年）生まれで、今、79歳。この年齢まで大病をしたことがありません。母が元気に産んでくれたことに感謝しています。被爆の後遺症がなかったことも奇跡的でしょう。人間誰もが目の前に片付けなければならない課題があり、毎日少しずつやっていこうという義務感が元気の素でしょうか。

『さいごのトマト』とヒロシマ

――義務感とおっしゃられた一つには『さいごのトマト』があると思いますが、講演を通して誰に何を届けようとしておられますか？

被爆体験を語る日には、姉、先生、学友たち、亡くなられた方達のことを想います。「今日、被爆体験を語るので力を与えてください」と。手を合わせます。

話をしたことが、聞いてくださるみなさんの心の中に入って、受け止めていただけることを祈るには力が要ります。年齢を重ねたからこそ、備わった力もあるはず。本に書いてあることでも生（なま）で聞くと全然違う。他の人の話でも同じだと思いますよ。人間には人知を超える何か、great somethingがあります。それをいただき、自分を通してみんなで分け合えればと思います。

――それは亡くなったお姉様が、会長を通してみなさんに伝えようとしているということでしょうか？

そう言っていただけると、ありがたい。言葉を超えるものに昇華されているのではないかと…。これが人間の持っている素晴らしいところだと思います。

人生のいろいろな体験を重ねる中で、なぜ戦争が起こるのだろうかとずっと考え続けてきました。今も考えていますが、解決はしていない。人類の歴史は戦争の歴史。懲りもせず繰り返している。しかし、負けた方はもちろん、勝った方も戦争をして幸せになることがあるのだろうか。大きな犠牲や失われていく多くの命、くらしが破壊される。なぜ、それが繰り返えされるのか。私だけでなく、おそらくみなさんも考えておられることだと思います。

あるとき、平山郁夫画伯（1930年～2009年12月）とお会いする機会があり、お互いの被爆体験について話しました。平山氏がボスニア・ヘルツェゴビナ（サラエボ）にNHKの企画番組で行かれた時、スタッフとともに町へ出て美術学校を訪ねられた。すると、学生たちが日本の敗戦後の廃墟のようなところで絵を描いていて、「平山さん、あなたは被爆者でしょう。アメリカが憎くないのですか」と詰め寄られたとき、「確かに憎い。しかし、暴力に対して暴力で応酬していたら、暴力の連鎖は終わらない。ゆるすことの先にしか人類の平和や繁栄はない。気持ちはわかる、よくわかるが…」と答えられたそうです。（ゆるすは「恕す」と書く）

原爆投下されたことの結果は、何としてでも乗り越えていかねばならないという想いを共有し、その事実から学びとって、再び戦禍に陥ることのないようにすること。「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」と刻まれた言葉は、誰が誰に言ったのかなどと難しく考えることはない。国籍、人種を超えて人類みんなの想いだと思います。

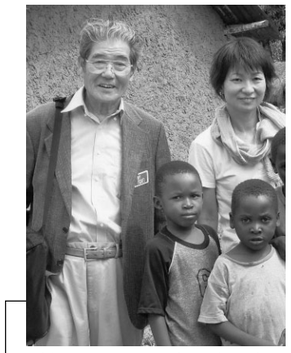
ユニセフ活動からの発信 子どもの命が最優先

――コープこうべのトップとしての活躍をされていましたが、生協活動のお話も聞かせてください。

確かにライフワークは生協活動。同志社大学学生生協から始まり、当時は「より良き生活と平和のために」が私たちの目標でした。49年間の生協活動の中で海外を視察し、学習をする中で、1989年にベルリンの壁がなくなるまで米ソの対立がありましたが、世界の協同組合ＩＣＡ[注①]は東西で手を握っていました。これはすごいことで、中国やソ連と日本の国交がないときも協同組合同士が協力していました。人間のくらしの根本は平和です。平和なくして生活はあり得ません。これは賀川豊彦が掲げた理念であり、彼は「平和とより良き生活のために」と順序を入れ替えてほしいとまでこだわった。世界の協同組合は同じことを目指しているのです。くらしを大切にし、より良くしていこうと。平和を構築することでくらしをつくっていくことができる。私は、生協活動の中にこれを見出してとりこになり、生協活動を続けていこうと思ったのです。

国連が「国際児童年」を定めた1979年に、ＩＣＡが世界各国の生協に「バケツ一杯の水をアフリカに送ろう」という呼びかけを始めました。当時のポスターの、うつろな子どもの姿が脳裏に焼き付いています。ユニセフを意識した、初めての瞬間でした。その後、コープこうべの労働組合が「社会的活動に取り組む」という方針を定めたのがきっかけです。５歳未満の子どもが１年に1000万人亡くなっていたのが、少しずつ改善して現在810万人に減りました。これは大きな前進ですが、まだ3.6秒に１人の命が失われていくという現実があります。社会的活動には、私たちの日常に結びついている、動いているという喜びを共有することが大切です。日本ユニセフ協会で一番多いのは個人献金です。募金箱を家庭に置き、わずかずつでも貯まっていく、日常的に子どもとの話題が世界のことに及んでいくことも大切なのです。世界には子どもの数だけ夢があるのです。

そして、学校は夢を膨らませるところです。日本ではモノがあふれて見えなくなっていますが、タンザニアに行ったとき、子どもたちはみんな学校に行く喜びで、目が輝いていました。子どもの命を救うことと、就学率を上げていくことを願います。



県支部タンザニアツアーにて（2006年10月）

神戸まつりパレードにて（2007年5月）

夢を語る

――ルワンダのマリールイズさんのお話にも「学校は子どもに夢を与えるところ」、そして「子どもに夢を語らせるのが、私の夢」という言葉が出てきますが、今、会長の夢は何ですか？

特に夢はないですが、人間が好きですね。

死ぬまで被爆体験を語り継ぐことは続けたいと思っています。これから急激に実体験者が消えていきます。0歳でも被爆体験者だと言われますが、小学校低学年ぐらいまでは社会的体験としては持ち得ないのではと思います。被爆体験者の年齢幅の人が亡くなっていく時期に入っています。また、ここ数年インターネットによる情報世界のグローバル化により、人類的レベルの情報がリアルタイムで共有できる時代に入ったことも体験を繋ぐ意義は大きい。戦後65年経って、初めて国連事務総長やアメリカ合衆国の大使が広島を訪れたことは大きな時代のエポックです。

――これからを生きていく若者へのメッセージを、いただけないでしょうか。

今、自分の目の前にあることに対して力一杯やる、迷わずに。目の前のぶつかったことを一生懸命やってみる。これが私の人生観です。それには人間同士のネットワークも大きい。生涯の宝ですね。それができるのは青年時代です。

――最後に、会長の座右の銘を教えてください。

フランスの抵抗詩人　ルイ・アラゴンの詩の一節「教えるとは希望を語ること、学ぶとは真実を胸に刻むこと」という言葉。教えるためには自分が希望を語れないといけない。学ぶとは知識だけではなく、真実というものを胸に刻むこと。真実とは何かという点でメンタルな面も大きいと思いますが、本当のものを学び取り、力強く胸に刻み込まなければなりません。

インタビュー後記
「大人の真剣な生きる姿勢、一生懸命な姿」。それが私たちが伝えられる、子どもたちへのメッセージだということを、改めて確信した時間になりました。（福井）

＊注①：ICA（International Co-operative Alliance）国際協同組合同盟。1895年にロンドンで設立された。2009年5月現在、本部はジュネーブにあり、85カ国の223団体が加盟し、総組合員数が8億人を超える世界最大の非政府組織（NGO）となっている。

夏休みユニセフ親子教室「はたらくってなんだろう」

日本の子どもたちなら誰でも知っているチョコレート。でも、その原料のカカオ豆を作っているガーナの子どもたちは、チョコレートを見たことも食べたこともありません。知っていますか？

8月7日、今年も恒例の夏休みユニセフ親子教室が開催されました。身近なチョコレートをテーマに、「児童労働」について考えました。ユニーズのメンバーを中心に、カカオ豆生産者の家族のミニドラマ、日本の子どもたちの普通の１日と児童労働に携わっている子どもたちの１日を比べる疑似体験、三択クイズ等で楽しみながら学習しました。

ただ、今年は参加者が少なかったのが残念でしたが、ユニーズのメンバーが自分たちで一生懸命考え、演じ、大活躍の親子教室となりました。来年からは児童館や学童保育に出前教室を検討中です。（中村弘子）

ようこそユニセフへ

【インターンシップ】
大阪大学大学院（8月）、関西国際大学・大阪経済大学（10、11月）

有江ディアナ
大阪大学大学院
国際公共政策研究科
博士前期課程

私は、「子どもの教育権」について研究をしています。今回、ユニセフ兵庫を支える多くのスタッフとボランティアの方と出会うことができました。大変気さくで笑顔の竹本会長。頒布活動は、事務チームの方との打ち合わせから始まり、カードチームさんの準備にも参加しました。学習チームさんからは、子どもが置かれている現状を伝えたい気持ちが分かりました。広報チームさんの写真を撮る仕事の手伝いもしました。何より、事務局長の福井さんからは、積極性と人としての大切なことを教えていただきました。

多くを学び、エネルギーをいただき感謝しています。

◇

「世界の子どもたちの中には、毎日仕事をして、家族を養い、学校に行けない子がたくさんいます。私は今まで、自分の生活が普通だと思っていました。でも今回トライやるでユニセフに参加し、いろいろ教わって、世界の子どもの現状などを知りました。そして、いつも私たちがなんとなく使う100円が子どもたちを救う１つの手段であることもわかりました。ユニセフが世界の子どもたちを助けていることがわかり、もっと協力していきたいと思いました」

「ユニセフの仕事も目的は、世界の子どもがみんな大切に守られて、健康に育って、学校で勉強して、ひとりひとりが能力を発揮して生きていけるようにすることによって、平和でよりよい世界をつくっていくことです!!」

【トライやる】
神戸市立本山南中学校（10/25～29）
神戸市立御影中学校（11/8～12）

今回参加の中学生に、活動を通じて「感じたこと」「知ったこと」を聞いてみました。

神戸市立本山南中学生

神戸市立御影中学生

◇

カード頒布や小学校への出前学習会にも積極的に参加。若い人の夢とパワーとエネルギーがユニセフ活動を支えてくれる日が楽しみです。

ルワンダ講演会

●10月20日　●姫路じばさんびる

～ルワンダ内戦を通じて感じる命の尊さ～をテーマに、ルワンダ出身のマリールイズさんの講演会が行われ、95人が参加した。

ルワンダは1962年にベルギー植民地から独立したが、1994年の内戦で多くの人たちが虐殺された。内戦勃発後、難民生活の中で、マリールイズさんは子どもを連れて一日50キロメートルも歩く日々が続いた。このとき肉親と離れ離れになった子どもたちは数知れないという。戦火を逃れてたどり着いた難民キャンプで日本人医師と出会い、日本語が話せるということがきっかけとなり通訳の仕事を得、日本に来ることができた。

マリールイズさんは小学５年生のとき、母国で日本について勉強したことがある。「広島」や「長崎」のことも学んだ。教育環境が整備されておらず、一人ひとりに教科書はなく、先生の持っている１冊の教科書をみんなで見て勉強した。その後、JICAのカウンターパートナーとしての活動を経て、今の生活があるのは日本語のおかげで命がつながり、教育によって救われた。だから、義務教育は絶対に必要だと訴える。教育の大切さを痛感し、また内戦で傷ついた子どもたちに夢を取り戻してほしいという強い思いから、ルワンダに学校を建設することを目的に、「ＮＰＯ法人ルワンダの教育を考える会」を福島で立ち上げ、現在も活動を続けている。

参加者から、「今の自分にできることは何かを考えさせられた」「教育を受けたくても受けられない人が世界にはたくさんいることを忘れてはいけない」という感想も聞かれた。「念ずればかなう」という言葉が好きだというマリールイズさん。「安心して眠れる夜を、朝を普通に迎えることに感謝してください」と。そして「命をくれた親にも感謝を」という言葉で講演を締めくくった。（オリーブの会・篠原里美）

カード頒布 大忙しでもうれしい活動

今年もコープこうべの組合員まつりが開催され、県支部からも30地域以上の会場に参加、頒布活動を行いました。まつりは、コープの商品や活動の紹介、バザー等で賑わっており、参加された組合員さんは楽しく過ごされていました。

「毎年、カードやグッズを利用してるのよ」と言ってくださる組合員さん、ユニセフについていろいろなご意見も聞かせていただきました。ユニセフにご支援くださる方と直接話ができ、たくさんのみなさんとの出会いがあるのもこのような機会をいただけるおかげです。

また、恒例の「兵庫県ふれあいの祭典」「きょうどう学苑祭」「ユニセフカップマラソン西宮」等に加え、初めて「猪名川チャリティフェスティバル」にも参加しました。

一枚のカードからつながる、ユニセフの輪、大切にしていきたいと思っています。（中松好子）

第32回 ユニセフ ハンド・イン・ハンドを実施

世界の子どもたちへの協力をお願いする街頭募金活動を、12月23日（木）に行い、家族連れをはじめとするたくさんの方から373,027円もの募金をいただきました。今回初めて芦屋会場も加え、県内11ヵ所・158人の参加で行いました。ボランティアさんの中には初めて参加した高校生や大学生、毎年決まって参加いただける方など、活動の輪も広がってきました。師走の寒風の中、道行く人たちから寄せられた善意と温かい言葉に心から「ありがとうございました」のことばが出てきます。ご協力いただいたみなさんへ感謝です。

募金や会員など、あなたができる方法でご協力ください

緊急募金のお願い

●ハイチ地震緊急・復興支援募金
郵便振替:00190−5−31000
※通信欄に「ハイチK1−280兵庫」と記入

●パキスタン緊急募金
郵便振替:00190−5−31000
※通信欄に「パキスタンK1−280兵庫」と記入

●アフガニスタン緊急・復興支援募金
郵便振替:00190−5−31000
※通信欄に「アフガニスタンK1−280兵庫」と記入

●アフリカ緊急募金
郵便振替:00190−5−31000
※通信欄に「アフリカK1−280兵庫」と記入

●自然災害緊急募金
郵便振替:00190−5−31000
※通信欄に「自然災害K1−280兵庫」と記入

●人道危機緊急募金
郵便振替:00190−5−31000
※通信欄に「人道危機K1−280兵庫」と記入

※送金手数料は免除されます。
※口座名義：財団法人日本ユニセフ協会
※募金はゆうちょ銀行指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。
※ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。

ユニセフ募金

～ご家庭で学校で職場で～

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもたちの支援活動に使われます。

◆郵便振替でお願いします
◆口座番号：00190-5-31000
◆加入者名：（財）日本ユニセフ協会
◆通信欄に「K1−280兵庫」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行う日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

◆一般会員…1口　5,000円（個人ならどなたでも）
◆学生会員…1口　2,000円（18歳以上の学生）
◆団体会員…1口　100,000円（団体、法人、企業）

※申込み方法については、お問い合わせください。

ボランティア募集

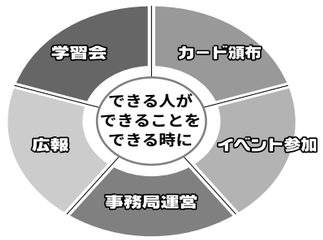
ユニセフってことばは知っているけれど、いったいどんな活動をしているんだろう。また、世界の子どもたちのために、私もボランティアできるかな。

そんなことを思ったら、まずはご連絡ください。

「知ることから」を大切に、活動に関わる中で、知ったことを伝える、行動につなげているのが、ボランティアさんの活動です。幅広い年代の方に参加いただき、いろいろな活動に取り組んでいます。あなたにできること、いっしょに見つけてみませんか。

「できる人が　できることを　できる時に」がモットーです。お気軽にお問い合わせください。

学習チーム ユニセフについての出前学習会の講師活動
カードチーム カードなどのユニセフ製品の頒布活動や管理
事務チーム 支部事務局をサポートする事務所内での活動
広報チーム 「Wish」の作成やその他広報ツールの作成
UNIES 学生など若者が中心の活動
オリーブの会 姫路・加古川でのカード頒布を中心とした活動
西宮チーム 西宮交流コーナーでの広報活動



●学習会訪問一覧（2010年4月～12月）

訪問日	訪問先	対象	人数
4月20日	神戸東ロータリークラブ	メンバー	100
4月23日	神戸学院大学	社会貢献ユニット	28
5月23日	ガールスカウト71団	子ども～大人	23
6月9日	神戸北コープセンター	サークルメンバー	20
6月12日	住之江公民館	大人	6
6月15日	丹波市立久下小学校	小学6年	33
6月18日	篠山市立岡野小学校	小学6年	34
6月25日	神戸市立桜の宮中学校	中学1年	70
7月8日	コープ第1地区平和企画会	メンバー	15
7月30日	コープ中山台	子ども～大人	12
8月6日	デイズ豊岡	親子	20
9月10日	住之江公民館	三歳児の母	16
9月30日	コープこうべ第1地区	大人	50
10月4日	コープこうべ労働組合	大人	150
10月8日	大阪経済大学	大学生	20
10月29日	百合学院高校	高校2年	70
11月7日	ボーイスカウト姫路第16団	子ども～大人	36
11月9日	宝塚第一小学校	小学6年	195
11月18日	篠山市立西紀中学校	中学1～3年	144
11月25日	高岡小学校	小学5、6年	23
12月7日	尼崎市立小園小学校	小学6年	117
12月23日	ガールスカウト兵庫51団	子ども～大人	25
12月23日	ボーイスカウト神戸第52団	子ども～大人	30

▲「ユニセフすごろく」に夢中な子どもたち（ガールスカウト兵庫51団）

お・知・ら・せ

第9回「ユニセフのつどい」
～世界のともだちと心をつなごう～

とき 2011年 3月 5日（土）　入場無料・要予約
10:30～16:00（予定）

会場 コープこうべ生活文化センター2階ホール
JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分
（会場へは下記の案内図をご覧ください）

午前の部：International Exchange　10:30～

国際交流広場！
ワークショップなどに自由に参加いただけます。

- フェアートレードカフェ
- ブータンってどんな国？　TRY anything you like!
- ルワンダってどんな国？　マリールイズさんゲスト参加（予定）
- 民族衣装を着てみよう
- PHD協会/ネパール、インドネシアからの研修生も参加予定
- 手づくりコーナー「キューブパズル」　軽食（パン）

午後の部：知ることから始めよう！　12:30～

オープニング

募金贈呈式　活動紹介

ユニセフブータン視察報告
「目には見えない大切なもの」
●片岡雅子さん（岡山県支部事務局長）

会場のみんなで楽しもう（Lets' dance!）

主催：日本ユニセフ協会兵庫県支部
後援：兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会
（公財）兵庫県国際交流協会、生活協同組合コープこうべ
協賛：神戸 YMCA、神戸 YWCA
協力：甲南女子大学チアリーディング部

神戸ラブランチャリティ・ウォーク

ポートアイランド・市民広場のゴールを目指して歩こう！

日　時　2011年2月13日(日)
10:00～15:00（雨天決行）
コース　①新長田発14キロコース　②神戸空港発4キロコース
※ユニセフも出展、カード頒布などを行います。

ユニセフパネル展「立ち上がる女性たち」
～アグネスチャンが見た“忘れられた国”ソマリア～

日時　2011年2月25日（金）～3月8日（火）　9:00～17:00
会場　コープこうべ生活文化センター1階ロビー

県支部も出展します

「神戸生活創造センターフェスティバル」2/20（日）
「西宮コープファミリーフェスタ」2/27（日）
「2011ふれあいフェスタ宝塚」3/ 6（日）
「第4地区平和のつどい」3/ 6（日）
「まつりinすみよし」3/12（土）
「神戸国際交流フェア」3/13（日）
「塚口サークルフェスタ」3/27（日）
※くわしくはお問い合わせください。

unicef

ＩＫＥＡ　ソフトトイキャンペーン
「アフリカに学校を建てよう」

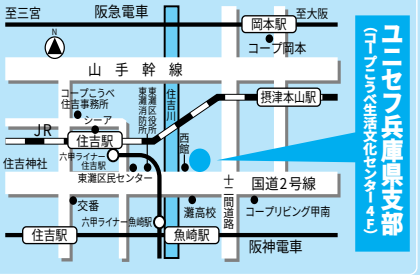
11月7日(日)、イケアポートアイランド店１Ｆ入口に集まってくれた子どもたちへパペット人形からごあいさつ。その後、インターンシップで参加の大学生のお兄さん、お姉さんもいっしょに、ユニセフマークのクイズや手作り紙芝居「なかよくなれるよ」を行いました。たくさんの子どもたちが楽しそうに見入っていました。

お申し込み・お問い合わせは兵庫県支部まで
☎078-435-1605
FAX 078-451-9830
※電話でのお問い合わせは平日の10時～16時

世界の子どもたちのために Wish Vol.32号（2011年1月号）

ユニセフ兵庫ニュース
2011年（平成23年）1月発行
発　行：日本ユニセフ協会兵庫県支部
住　所：〒658-0081
神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 4F
電　話：078-435-1605
ＦＡＸ：078-451-9830
（お問い合わせは平日の10時～16時）

●最新の情報はホームページで
http://www.office-bit.com/unicef-hyogo
日本ユニセフ協会兵庫県支部　検索

●ユニセフ兵庫県支部への案内図

●JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分